

# 大友宅地添遺跡

前橋西部老人福祉センター建設事業  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1 9 9 8

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

## 序

前橋市は、関東平野の北西に見事な裾野をひいてそびえる赤城山の南側を市域として、坂東太郎で知られる利根川や詩情豊かな広瀬川の清流が市街地を貫流する水と緑に恵まれた県都であります。

遠く古墳時代には東国の中核的文化を築き、律令政治が栄えた頃には上野国府が置かれ、近世には「関東の華」と言われた厩橋城の城下町として栄え、近代に至っては生糸の主要生産地として繁栄し、歴史を物語る様々な情景を映し出してきました。

市では「人と自然が共生する 環境・文化都市」を目指し行政を進めており、教育文化・商工業など多方面にその成果を見ることができます。その一つとして大友町に「前橋西部老人福祉センター」を建設する計画です。

この総社地区には、総社神社、着海城跡、更に西に国分僧寺・国分尼寺等の数々の文化財が残されています。大友宅地添遺跡も国府推定地東側外郭線よりやや東に位置することから、この地域を知るうえで重要な遺跡であります。

発掘調査により古墳時代の溝跡4条、土坑2基、畝状遺構13列、平安時代では水田跡20面や中世以降の溝跡10条、土坑24基等が検出されました。特に畝状遺構や水田跡では、この地区の古墳時代から平安時代にかけての人々の生活を知るうえで、貴重な資料を得ることができました。

この調査報告書を刊行するにあたり、前橋市保健福祉部高齢福祉課をはじめ、多くの関係各機関の方々、地元の方々の御理解と御協力を得たことに対し、深甚なる感謝を申し上げます。

平成11年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 渡辺勝利

## 例　　言

- 1 本報告書は、平成10年度前橋西部老人福祉センター建設事業に伴う大友宅地添遺跡発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市大友町一丁目12番地の10外
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団(团长 渡辺勝利)の指導のもとに、前橋市保健福祉部高齢福祉課の委託を受け、スナガ環境測設株式会社(代表取締役 須永真弘)が実施した。
- 調査担当者 真塙明男・古屋秀登(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)  
　荻野博巳(スナガ環境測設株式会社)
- 4 発掘調査期間 平成10年6月15日～平成10年10月15日  
　整理期間 平成10年8月1日～平成11年3月25日
- 5 調査計画面積 1,500m<sup>2</sup> (実施面積(一面) 1,680m<sup>2</sup>、(二面) 673m<sup>2</sup>、合計 2,353m<sup>2</sup>)
- 6 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永真弘、調査担当…荻野博巳、調査指導…新保一美、調査員…勝田貞幸、測量・実測…板垣宏、樺田友寿、山口和弘、写真撮影…荻野博巳、勝田貞幸、安全管理(重機オペレーター)…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 8 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆を荻野博巳、編集・校正…須永真弘、金子正人、新保一美、実測図の整理他…勝田貞幸、遺物洗浄・注記・接合…須永豊、神津芳夫、写真整理・内業事務…須永豊・柴崎信江が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々(敬称略)  
　石川サワ子 内山恵美子 桑島英彰 中川住一 都丸藤子 石田みよ子 今井つる 小林ひろ  
　高橋あき 根井よし子 関根時太 背木もと代 後藤きく江

## 凡　　例

- 1 遺跡の略称は、10A85である。
- 2 遺構名の略称 畦畔…A、溝跡…W、土坑…D、水田番号…ゴシック数字で表示した。
- 3 実測図の縮尺 第一・二面平面図1/300、I 次遺構1/40, 1/80、溝跡1/40, 1/80, 1/100, 1/300、土坑/300を使用。
- 4 插入図は、国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 5 各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合済。基準点 C-2 グリッド地点 第IX系座標値 X 43060.000m Y -70140.000m、水準点 BM.111.000m、等高線 5 cm、グリッド 4 m間隔
- 6 土層断面の土色名は『新版標準土色帖』(農林省農林水産技術会議事務局 監修 財團法人 日本色彩研究所 色票監修)による。
- 7 土層注記及び本文中には As:浅間山、Hr:榛名山二ツ岳を使用し、断面図の地山部分に斜線を使用した。
- 8 水田の面積は、平面図をもとに座標面積計算で算出した。

## 目　　次

序	2. 古墳時代.....	6
例　　言	(1) 故状遺構.....	6
凡　　例	(2) 溝　跡.....	6
目　　次	(3) 土　坑.....	7
I　調査に至る経緯.....	3. 平安時代水田跡.....	7
II　遺跡の位置と歴史的環境.....	(1) 水田の地形.....	7
1. 遺跡の立地.....	(2) 畦畔と水田区画.....	7
2. 歴史的環境.....	(3) 水　口.....	7
III　調査の経過.....	(4) 水田面の状況.....	7
1. 調査方針.....	4. 中世以降.....	8
2. 調査経過.....	(1) 溝　跡.....	8
IV　層　　序.....	(2) 土　坑.....	8
V　遺構と遺物.....	VI　まとめ.....	8
1. 概　　観.....		

## 挿 図

第1図	周辺遺跡図	2
第2図	昭和43年当時の遺跡周辺と方格地割	3
第3図	遺跡概略図	5
第4図	発掘調査経過図	5
第5図	基本土層断面図	6
第6図	第二面調査区平面図	11
第7図	畝状遺構、W-1・2 実測図	12
第8図	W-2 断面図	13
第9図	W-4 実測図	13
第10図	第一面調査区平面図	14
第11図	W-5 実測図	15
第12図	W-1~3、W-6~14 断面図	16

## 写 真 図 版

- 図版1 調査前現況（東から撮影）、深掘り土層断面、畝状遺構全景（精査前南より）、畝状遺構全景（精査後）、畝状遺構近景（南より）、畝状遺構近景（農具使用痕）、W-1・2、D-1・2、畝状遺構全景、D-1・2、畝状遺構近景（南より）
- 図版2 W-3 全景（西より）、W-4 全景（西より）、第二面調査範囲（南より）、As-B軽石下水田跡全景（東より）、残地部分 As-B軽石下水田跡・W-6・7 全景（北より）、As-B軽石下水田跡検出状況（精査前）、南壁畦畔セクション、D-6 グリッド内水口（南より）
- 図版3 C・D-18グリッド内水口（南より）、C・D-18グリッド内幅広の畦畔（南より）、As-B軽石下水田面の足跡列、17・18号水田面の凹み部分（東より）、As-B軽石下水田面遺物出土状況、W-5・8・9・12・14全景（西より）、W-5 全景（南より）、W-5 南壁セクション
- 図版4 W-8・12・14東壁セクション、W-10全景（南より）、W-11全景（西より）、土坑検出状況、古墳時代の遺物、As-B軽石下水田面検出遺物、古銭（表側）、古銭（裏側）、平安時代の遺物、近世以降の遺物

## 表

畦畔計測表	9	水田計測表	9
土坑計測表	10	溝計測表	10

## I 調査に至る経緯

前橋市大友町一丁目12番地の10外に前橋西部老人福祉センター建設事業〔事業者 前橋市長萩原弥惣治（市保健福祉部）〕の実施計画が、前橋市教育委員会に提出されたことを受けて事前協議を行い、埋蔵文化財の有無について試掘調査を実施することになった。その結果、浅間B軽石堆積層下より水田跡の畦畔や溝の一部などを検出した。このことから事業担当者（前橋市保健福祉部高齢福祉課）と協議を重ね、開発事業の実施に先だって埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存することとなった。

発掘調査は、前橋市長と前橋市埋蔵文化財発掘調査団及び民間調査機関との三者で委託契約を締結し、調査団の指導・監督のもと発掘調査をスナガ環境測設株式会社が受託して実施した。

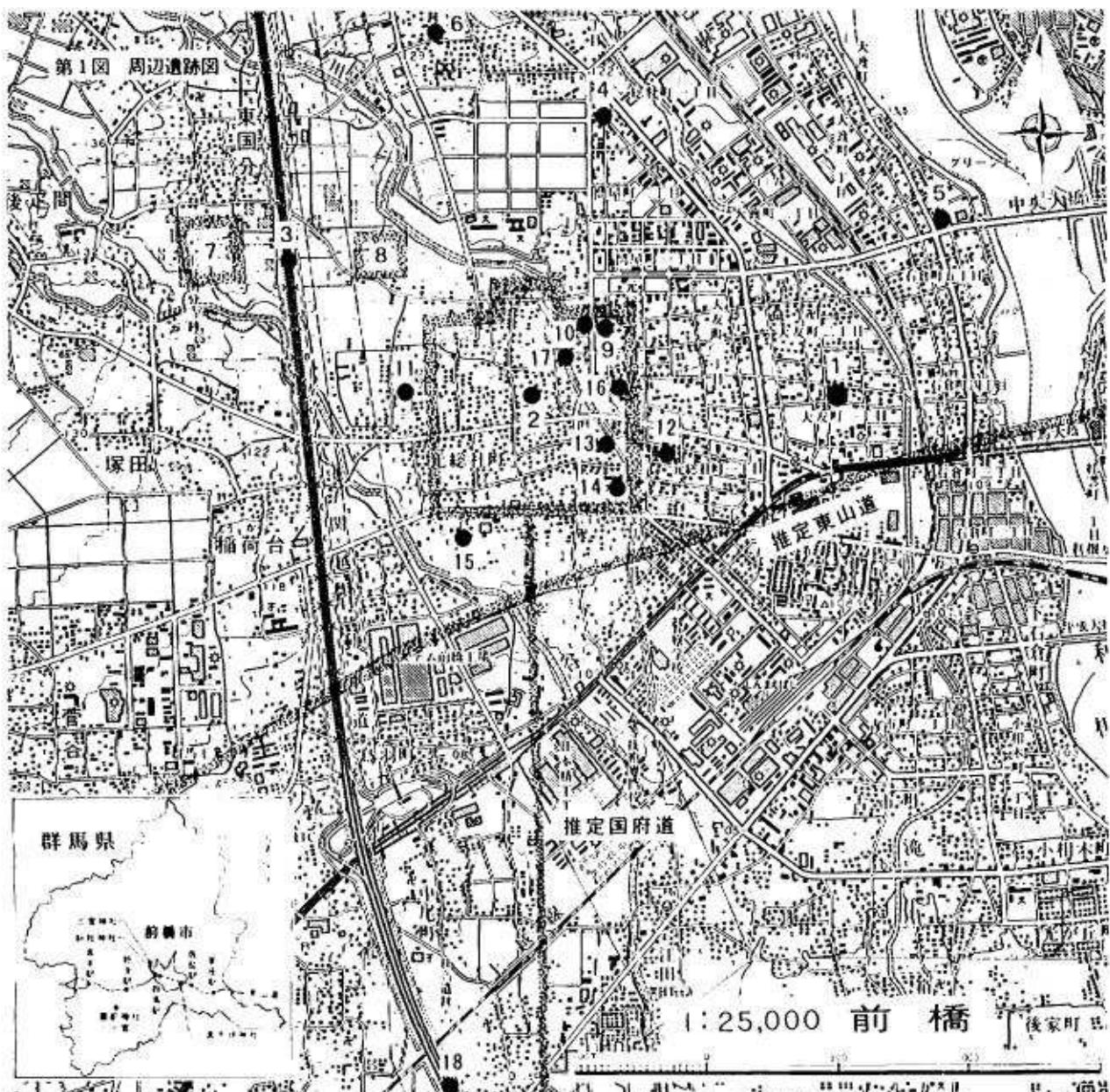
## II 遺跡の位置と歴史的環境

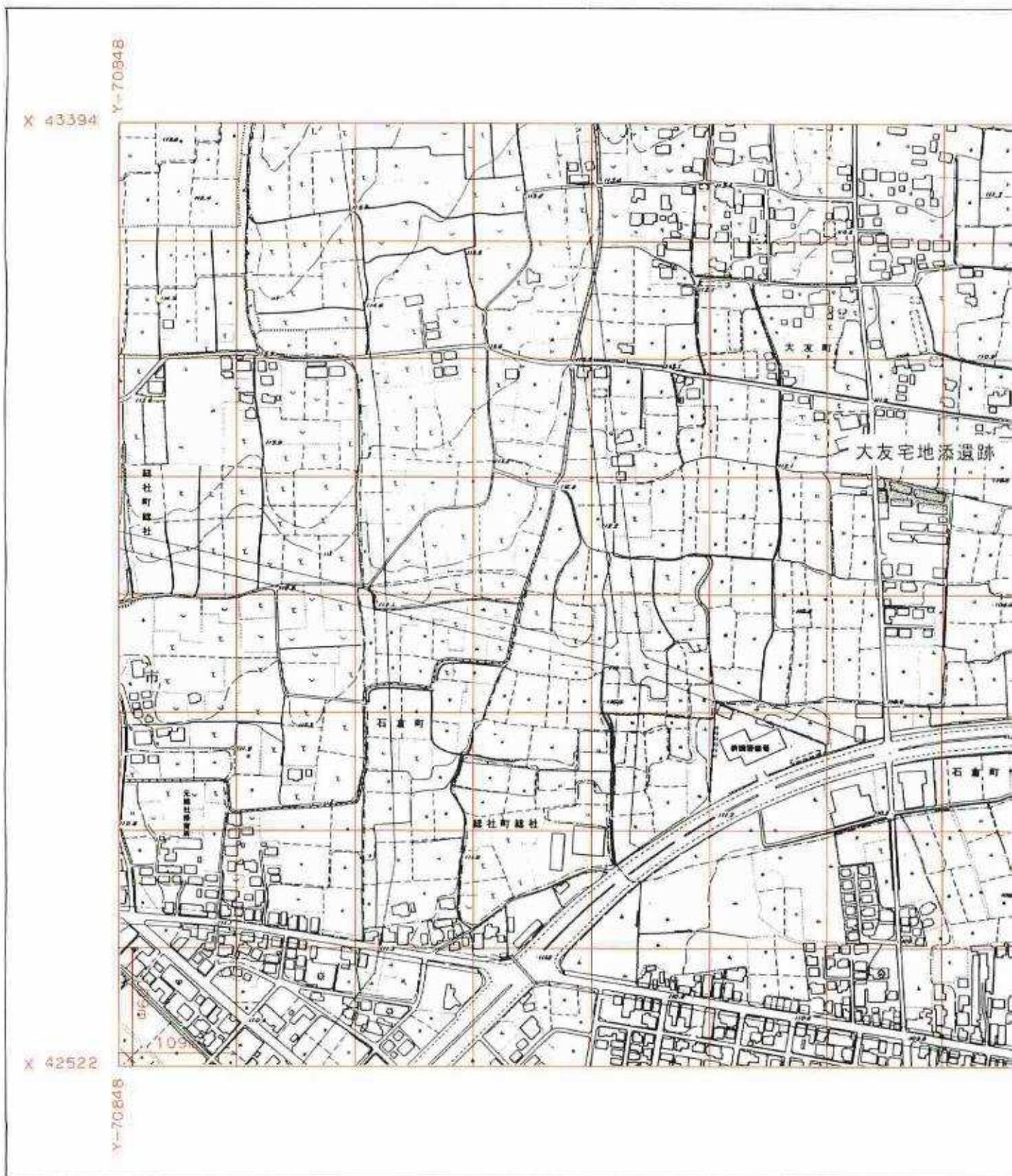
### 1. 遺跡の立地

大友宅地添遺跡の立地する大友町は、群馬県中央部に位置する榛名山の東南麓で火山斜面が平らな面に移行する前橋台地面との境界付近に位置する。前橋台地は、約24,000年前の浅間山の爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層から成り立っている。本遺跡は、前橋市街地（県庁付近）から利根川を隔て、西へ1.1kmの地点に所在する。周辺には主要幹線道があり、南側には国道17号（通称高前バイパス）、北側と西側には主要地方道前橋・群馬・高崎線（通称前橋・安中線）が走る。さらに東側にJR上越線が南北に通り、並行する形で相馬ヶ原扇状地の頂部から流下する八幡川と天狗岩用水が合流して、名前を変えて流れる滻川がある。これらの主要幹線道や河川に沿って工場地や住宅地が連携して市街地を形成している。

## 2. 歴史的環境

前橋市大友町は、本遺跡（1）の西方750m程に古代政治文化の中心地の推定上野国府域（2）や中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城などが近接する歴史深い地域である。ここで周辺の遺跡を概観すると、縄文時代の遺跡では、前期・中期の集落が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡（3）、産業道路西遺跡（4）などがあげられ、当地域の縄文文化を考えるうえで重要な資料と言える。弥生時代では調査例が少なく、後期の住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡がある。古墳時代では、本遺跡地周辺に古墳が姿を現すのは5世紀後半と推定され、それから多くの古墳が出現する。本遺跡北東約800mには川原石を用いた積石塚である6世紀初頭の王山古墳（5）や北西2.1kmには白鳳期建立と考えられる山王庵寺（放光寺）（6）があり、宝塔山古墳に見られるとおり仏教文化が古墳文化と共に存した様子がうかがえる。奈良・平安時代では、上野国国分僧寺（7）、国分尼寺（8）等が建設され、当地域はいよいよ古代上野国の政治文化の中心地としての様相を帯びてくる。推定国府の周辺では閑泉廻遺跡（9）、閑泉明神北遺跡（10）、草作遺跡（11）、大友屋敷遺跡（12）、寺田遺跡（13）、元総社小学校校庭遺跡（14）、天神遺跡（15）、屋敷川遺跡（16）、元総社明神遺跡（17）等が調査されている。本県における条里水田の発端となった日高遺跡（18）は国府推定地の南に位置し、条里水田の基本となつた遺跡である。ここから検出された大畦畔の位置を基準にして、1町（約109m）間隔で本遺跡まで追ってみると東へ日町目（約1,199m）の南北ラインが調査区の東側にかかり、この地に条里制の名残が存在すれば位置的に大畦畔が検出される可能性が考えられる場所である（第2図参照）。





第2図 昭和43年当時の



### III 調査の経過

#### 1. 調査方針

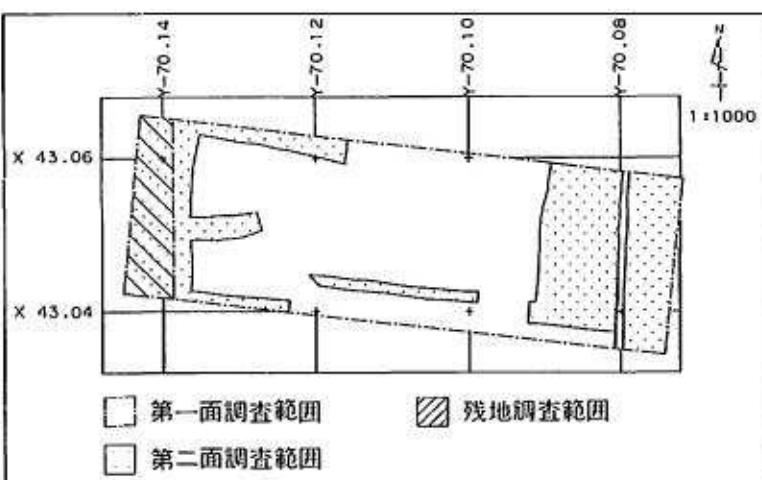
市教委が行った試掘調査結果をもとに、建物計画部分 (1,500m<sup>2</sup>) の発掘調査を実施した。調査区の設定は、公共座標に基づき東西方向に延びる緯線に直交する経線を算用数字で、南北方向に延びる経線に直交する緯線をアルファベットで付称して、4m グリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。

調査は二面を実施した。第一面は As-B 軽石下水田跡を主目的とした調査で、第二面調査は、下層の遺構確認の有無を判断するため便宜的に調査区内にトレンチを入れ、As-C 軽石下の面より検出した遺構を対象に範囲を設定し、調査を実施した。両調査区域は概略図（第3図）参照。

図面作成は、1/20, 1/40, 1/100, 1/200の縮尺を使用し、平板・遺形による細部測量で作図を行った。遺物は遺構・グリッド毎に収納し、遺物分布平面図及び遺物台帳に記載し、付番処理した。また遺構・遺物等の写真撮影（白黒・リバーサルフィルム）も行った。

#### 2. 調査経過

平成10年6月15日より資材・重機類の搬入、休憩所・仮設トイレの設置を行い、重機による表土掘削と並行して遺構確認面の精査を開始した。また調査区の北側に道路、東側が駐車場に面している部分については安全対策用のフェンスを張った。調査の進行について、平安時代の水田跡及び中世以降の溝跡、土坑等を検出した。第一面終了後引き続いて第二面調査を行い、古墳時代と思われる溝跡、土坑、畝状遺構を検出した。なお、西側の残地部分101m<sup>2</sup>（第3図参照）については、工事工程上10月4日より調査を実施し、10月15日に調査を終了した。その後10月16日から整理事業を行い、3月25日にすべての作業が完了した。



第3図 遺跡概略図

第4図 発掘調査経過図

月 作業	6月	7月	8月	9月	10月
表土掘削 ・プラン確認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
遺構精査 ・掘り下げ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
測量・写真撮影等		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
埋戻し・撤去作業			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

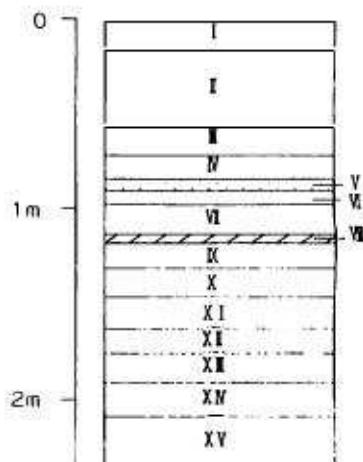
第一面  第二面

## IV 層序

本遺跡の標準層位は、調査区南東側の深掘りトレンチの土層断面を採用したものである。なお層序の説明と土層断面図は下記に示した。

### 〈層序説明〉

- I パラス
- II 盛土(客土)
- III 灰黄褐色土層 粘性・締まりあり 軽石粒が入る(耕作土)
- IV にぶい橙色土層 粘性・締まりあり As-B軽石を含む
- V As-B軽石層
- VI 褐灰色粘質土層 白色軽石粒を含む(As-B軽石下水田層)
- VII 灰褐色粘質土層 白色軽石  $\phi$  2~3mmを含む
- VIII As-C軽石層
- IX 黒褐色粘質土層 As-C軽石を含む
- X 黒褐色粘質土層 わずかに As-C軽石を含む
- XI にぶい黄橙色粘質土層
- XII にぶい黄橙色粘質土層 XI層より硬い
- XIII 浅黄橙色粘質土層
- XIV 灰黄褐色粘質土層
- XV 灰黄褐色粘質土層 XIV層より硬い



第5図 基本土層断面図

本文中に使用した略号は以下の通りである。

- As-C軽石：4世紀降下浅間山起因
- Hr・FA：6世紀初頭降下榛名山起因
- Hr・FP：6世紀中葉降下榛名山起因
- As-B軽石：1108年降下浅間山起因

## V 遺構と遺物

### 1. 概観

第一面調査では、As-B軽石下の水田跡20面と中世以降の溝跡10条、土坑24基を検出した。第二面調査では、As-C軽石下面より溝跡4条、土坑2基、畝状遺構13条を検出した。遺物は、須恵器・土師器片、古銭(寛永通宝)、磁器、陶器片や砥石片、鉄製品などを310点検出した。

### 2. 古墳時代(第二面)

#### (1) 畝状遺構 [第6・7図、図版1]

調査区の西側B-1・2・3グリッド～G-1・2グリッド、D-E-3・4グリッドに位置する。規模は確認長1.8~15.0m、上幅18~25cm、下幅8~12cm、深さ25~55cmを測る。掘削跡は90~100cmの間隔を置き、やや西側に弧を描いて北西から南東方向に13列検出された。底には農具の刃先と思われる半月状の使用痕が残っていた。畝状遺構は北西から南東方向の傾斜に沿って耕作したものと思われる。また検出範囲の一部はW-2によって切られているが、調査区の最西からW-2の東側まで検出された。覆土は、As-C軽石を含む褐色土と黄褐色砂質土(Hr-FAの二次堆積)であった。遺物は、耕作土上面で流れ込みの9世紀代の須恵器瓦片1点を検出した。

#### (2) 溝跡 [第6~9図、図版2]

溝4条を検出した。As-B軽石下の水田層より下でAs-C軽石の検出面より掘り込まれていた。いずれの溝もAs-C軽石やAs-C軽石を含む土層で埋まっていた。遺物は、W-4から流れ込みの土師器片が検出されたのみで、その他からは、検出されなかった。(溝の詳細は溝計測表に記載した。)

### (3) 土坑〔第6図、図版1〕

D-1・2が検出された。2基ともAs-C軽石を含む褐灰色土と黒褐色土で埋まり、掘り込みは黒褐色粘質土やにぶい黄橙色粘質土層まで達し、柱穴状を呈する。遺物の検出はなく、用途は不明である。(土坑の詳細は土坑計測表に記載した。)

## 3. 平安時代水田跡(第一面)〔第10図、図版2・3〕

調査区のほぼ全域でAs-B軽石下の水田跡が検出された。水田面は、現地表面より60~77cm程下にあり、厚さ2~10cmのAs-B軽石が堆積していた。遺物は、須恵器坏片など15点、土師器坏片など40点を検出した。

### (1) 水田の地形

水田跡は、部分的な検出を含めて20面検出され、1号水田の標高110.90mから19号水田東壁側の標高110.40mまで比高差50cmを持つ。全体の傾斜は西から東方向で約7/1000の勾配が見られ、この高低差を利用した水田と考えられる。

### (2) 畦畔と水田区画

この時代の水田区画には、条里地割の名残が見られる区画(長地型、半折型)や形状、大畦畔などの存在が見られることがある。畦畔は部分的に検出したものも含めて大きく分けると、東西方向に8本、南北方向に7本検出した。いずれも東西方向N-85°~98°-E、南北方向N-1°~3°-Wの範囲を示し、調査区に設定した座標軸にほぼ沿う形で区画が見られる。畦畔の規模は、上端幅16~60cm、下端幅37~90cm、高さ2~11cm程を測り、断面の形状は遺存状態の良いもので扁平な台形状を呈する。また17号水田と19・20号水田を区画する畦畔は、他の畦畔よりやや太く上端幅60cm、下端幅90cm、高さ11cmを測り、完全な検出ではないが太さに違いが見られた。また区画は部分的な曲がりはあるがほぼ東西・南北方向の畦畔によって区画され、区画間を計測できる畦畔長は東西方向で8~13.5m、南北方向で12.5~17.5mを測る。また区画を南北方向の畦畔間隔で見ると4・5・6号水田の東側畦畔と12・13号水田の西側畦畔間で約23.5m、7号水田の東側と13号水田の東側畦畔間で約22m、さらに12・13号水田西側の畦畔と15・16号水田東側の水田間で約22mの間隔が見られる。これらの畦畔間隔は畦畔をそれぞれ1本ずつ東へずらして計測したものであり、その距離は22~23.5mの範囲内に収まる。そこで条里区画の半折型東西間隔(1間を約1.81mとして12間は約21.72m)と比較すると本遺跡の畦畔間隔の距離がこれに近似していることがわかる。一見、不規則に並んでいるようではあるが、間隔に目を向けると条里の名残を思わせる距離が計測できる。

### (3) 水口

取水、排水のための溝等は検出されなかったが、区画を構成する畦畔に水口が3箇所検出された。F-2グリッド内の水口は5号・6号水田を区画する東西方向の畦畔に位置し、5号水田の標高110.90mから6号水田の標高110.85mへ5cmの差を利用して水が流されたと思われる。D-6グリッド内の水口は7号水田の東側の南北方向畦畔と9号・10号水田を区画する畦畔の接合部に位置する。水口より東側の畦畔はカクランを伴うためはっきり検出されなかつた。その水口には流水時の凹み跡が検出されていて、9号水田の標高110.80mから10号水田の標高110.78mとわずかな高低差によって流水したと思われる。さらにC・D-18グリッド内の水口は、南北方向の太い畦畔に沿って作られている。19号水田の標高110.45mから20号水田の標高110.40mへ流水したと思われる。水口の幅は上端幅20~28cm、下端幅4~9cm、掘り込みは3~6cmを測る。

### (4) 水田面の状況

確認面において、As-B軽石の堆積が厚い所とわずかに堆積が見られる所があり、その下より水田面が検出された。水田は整然とした畦畔で区画され、ほぼ平坦で凹凸が少ない。その面には人の足跡や水口などが検出された。足跡は数箇所に検出され、大きさは17~19cm程を測り、深さ3~6cm程で、歩行方向のわかるものも検出できた。また17号・18号水田面には南北方向に細長い、幅48~130cm、深さ1.5~4.5cm程の凹みが見られた。深掘りの断面では基本土層のIII層灰黃褐色土層からIX層のAs-C軽石を含む黒褐色粘質土層までわずかに凹みが見られ

たが、原因は不明である。また耕土状態は、水田に適した褐灰色粘質土で5~10cm程の厚さで堆積し、その下層に灰褐色粘質土層が15~20cm程堆積していることで、水田の水持ちを良好なものにしていると思われる。

#### 4. 中世以降

##### (1) 溝 跡 [第10~12図、図版3・4]

第一面調査で、溝跡10条を検出した。ほとんどがAs-B軽石下の水田層より下まで掘り込んでいる。W-5・14において、覆土はAs-B軽石を含む砂層で、遺物は須恵器・土師器片が検出されている。他のW-6~13では新しい耕作土と類似する灰黄褐色土層で埋まっていた。遺物はW-8から須恵器片・土師器片・古銭・陶器片・磁器片・鉄製品などと現代の器類等も検出された。W-8はW-12・14と重複し、斬削関係は覆土や切り合いからW-8→W-12→W-14の順に古いと思われる。(溝の詳細は溝計測表に記載した。)

##### (2) 土 坑 [第10図、図版4]

第一面調査でD-3~26まで、24基を検出した。大きさは大小様々である。検出時はAs-B軽石が堆積する面にAs-B軽石混じりの褐色土、灰黄褐色土で範囲が確認され、覆土もほぼ同様であった。掘り込みはAs-B軽石層からAs-C軽石を含む黒褐色粘質土層まで見られた。遺物はD-5より須恵器片2点、D-7より須恵器片1点と土師器片2点を検出した。用途は不明である。時代はAs-B軽石の堆積面を掘り込んでいることから中世以降のものと考えられる。(土坑の詳細は土坑計測表に記載した。)

## IV まとめ

第一面で検出した水田跡はAs-B軽石によって埋没した平安時代のものである。区画を見ると東西、南北に延びる畦畔は座標軸に沿う方向に伸び区画されている。畦畔には、やや幅の広いものも見られ、区画の大きさも南北方向の畦畔の間隔で見ると、間に南北畦畔が1本入るがその先の畦畔までの間隔が22~23.5m程を測ることができる。条里区画で言う半折型区画に酷似する畦畔間隔が見られる。調査範囲が限られているため全体を把握することができなかったが、畦畔の走行や半折型に酷似する間隔が見られたことは、条里制地割の名残と思われる。またC・D-18グリッド内に部分的に検出された幅広の畦畔が大畦畔にあたるものか推測すると、国府推定範囲の南側に位置する主要地方道前橋・群馬・高崎線沿いの元総社小学校より南西方向に250m程の所にある南北方向の古道(国府推定範囲の南側中央より南方へ高崎市倉賀野町に達する一直線の古道で東山道とも交差する)があり、条里制施行の基本線とみなされている。地図上で見ても南下する道がほぼ直線で前橋南部地区や高崎市に続き、その面影が見られ、国府を基点としていることがわかる。ここから東側にある本遺跡内のC・D-18グリッド内の畦畔までの距離を測ると1,206m程になり、基本線より1町(約1,199m)の地点より東へ7m程長くなるが大畦畔の検出が推定される位置に近いことがわかる。国府推定範囲も条里区画を基本としてつくられていることから、周辺地割りもそれにならって区画されていると推測される。本遺跡で検出した畦畔も国府域に近接した水田跡であることから、大区画を構成するものに含まれる可能性があり、条里の区画が残存していても不自然ではない。近年の発掘調査では、前橋市東部の中原遺跡群(平成4~7年度調査)において、平安時代初期(818年:弘仁9年)の赤城山南麓で起こった大地震に起因する洪水層で覆われた水田跡が検出されている。1町(約109m)四方の方格に区画された条里制の水田跡で、方格の内部は半折型(1間を約1.81mとし、東西約12間、南北約30間)に酷似していることが報告されており、条里制土地区画の存在が明らかになっている。また、前橋南部地区や利根川右岸地域においても水田跡の調査が盛んに行われており、As-B軽石の火山灰に埋もれた12世紀の水田跡が多く報告され、大畦畔の検出と共に条里制の存在が確認されつつある。本遺跡も、As-B軽石下の水田跡であることから条里制に関わりを持つものと考えられる。

付近で検出された水田跡を挙げると、元総社明神遺跡の調査においてHr-FA下の古墳時代の水田跡や、プラントオパール分析の結果、水田と認定された平安時代の水田跡が報告されている。

第二面で検出した畝状遺構は、やや湾曲するが規則性を持った耕作列である。底には農具によるとと思われる掘り跡が残り、傾斜に沿うように掘られている。また検出した13列の間隔はほぼ一定の間隔で湾曲部分もほぼ同じである。さらに畝状遺構は1m前後の間隔に20cm前後の掘削幅によって列をなしており、1列の畝状遺構から次の畝状遺構まで芯芯で測ると120cm程となり、1尺を約30cmとした場合はほぼ4尺の長さに匹敵することから、物指

しや一定の道具で測りだした間隔とも考えられる。さらに畠状遺構の範囲は、15~17m程度で湾曲しながら北側と南側で途切れていることや調査区東側からは畠状遺構が検出されていない状況から、耕作が一定範囲内に限って行われていたことが考えられる。以上のことからこの付近の土地利用や耕作した人々の生活を考える上で貴重なデータであると言えよう。

本遺跡の調査区域内から古墳時代の畠状遺構と平安時代の水田跡が検出されたことは、古墳時代の土地利用を考えると狭い範囲での検出ではあるが、この地は畠地として利用されていたことが考えられ、平安時代に至ると既に水田域に変遷したことがうかがわれる。また、この水田域は他の遺跡発掘調査結果と照らし合わせてみても前橋市南部地域にまで広大に営まれていたことがわかる。遺跡周辺には水田跡の調査例が希少なことと条里制施行時から長い年月を経ている水田跡であるため、条里の想定は非常に難しい状況であるが、本遺跡の調査結果と併せて今後の調査によって大畔による境界や水田域の特定、国府との関連性などいろいろな問題が解明されてゆくことに期待したい。

#### 参考文献

元総社明神道路Ⅲ・Ⅳ	1986	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
大友屋敷Ⅱ遺跡	1987	〃
元総社明神遺跡Ⅲ	1990	〃
元総社明神遺跡Ⅹ・Ⅺ	1994	〃
大屋敷遺跡Ⅲ	1995	〃
屋敷Ⅱ遺跡	1996	〃
大屋敷遺跡Ⅴ	1997	〃
宮地中田遺跡	1997	〃
六供下堂木Ⅱ遺跡	1997	〃
下新田中沖Ⅱ遺跡	1998	〃
日高遺跡	1982	群馬県教育委員会(旧)群馬県埋蔵文化財調査事業団
図説群馬の歴史	1989	西垣晴次 河出書房新社

畔計測表

No	グリッド	上端幅	下端幅	畔の高さ				No	グリッド	上端幅	下端幅	畔の高さ			
				N	S	W	E					N	S	W	E
A-1	B-1	20	42	—	—	2	4	17	B-9	24	56	—	—	4	9
2	B-C-1	32	48	2	2	—	—	18	D-10	20	37	3	5	—	—
3	D-1	36	57	—	—	2	5	19	D-9	21	44	—	—	2	6
4	F-1	40	55	4	5	—	—	20	H-9	26	64	—	—	4	7
5	G-1	20	44	—	—	6	12	21	H-11	20	40	2	4	—	—
6	B-3	(25)	64	—	—	(2)	3	22	B-11	22	50	—	—	4	8
7	C-2	(42)	(69)	5	2	—	—	23	D-11	27	52	—	—	3	6
8	D-3	35	59	—	—	3	4	24	E-F-12	23	47	2	4	—	—
9	F-3	37	61	2	6	—	—	25	F-11	34	46	—	—	5	10
10	G-3	42	60	—	—	4	9	26	H-11	30	51	—	—	6	8
11	F-4	23	52	4	7	—	—	27	C-15	23	52	—	—	3	6
12	B-6	35	60	—	—	2	2	28	E-F-15	16	44	2	4	—	—
13	D-5・6	45	70	—	—	2	6	29	G-15	29	45	—	—	3	6
14	D-6	23	42	5	6	—	—	30	C-18	60	90	—	—	(4)	11
15	G-6	20	40	—	—	3	9	31	C-D-19	17	37	3	8	—	—
16	G-9	35	58	3	3	—	—	32	D-18	57	82	—	—	3	5

( ) は検出値または推定形状、N・Sは畔位置を示す。

No	面積(m <sup>2</sup> )	東畔(m)	西畔(m)	南畔(m)	北畔(m)	形 状	水 口	備 考
1	(9.65)	(5.7)	—	(2.1)	—	—		
2	(32.77)	14.3	—	(2.8)	(2.1)	—		
3	(7.06)	(3.1)	—	—	(2.8)	—		
4	(49.90)	(6.6)	7.5	7.8	—	—		
5	96.12	12.8	12.6	9.4	7.8	—		S=1
6	(32.85)	(3.8)	(3.1)	—	9.4	—		N=1
7	(169.21)	(18.7)	(19.4)	(9.7)	—	縦長方形		足跡有り
8	(35.07)	(4.5)	(3.8)	—	(9.7)	—		
9	(83.83)	(6.2)	(7.7)	(2.8)	—	—		S=1
10	(155.73)	(12.1)	(11.0)	(13.7)	(2.8)	(横長方形)		N=1
11	(56.99)	(5.2)	(4.5)	—	(13.7)	—		
12	(41.85)	(5.0)	(6.2)	8.2	—	—		
13	135.90	17.8	(17.7)	(8.3)	8.2	縦長方形		
14	(0.83)	(0.6)	—	—	(8.3)	—		
15	(156.41)	(10.9)	(12.5)	13.7	—	—		足跡有り
16	(156.75)	(12.8)	(10.9)	—	13.7	—		
17	(122.47)	(5.0)	(10.9)	(7.2)	—	—		足跡有り
18	計測不能	—	(12.8)	—	(7.2)	—		
19	(3.20)	—	(1.8)	(2.7)	—	—		S=1
20	計測不能	—	(3.2)	—	不 明	—		N=1

土坑計測表

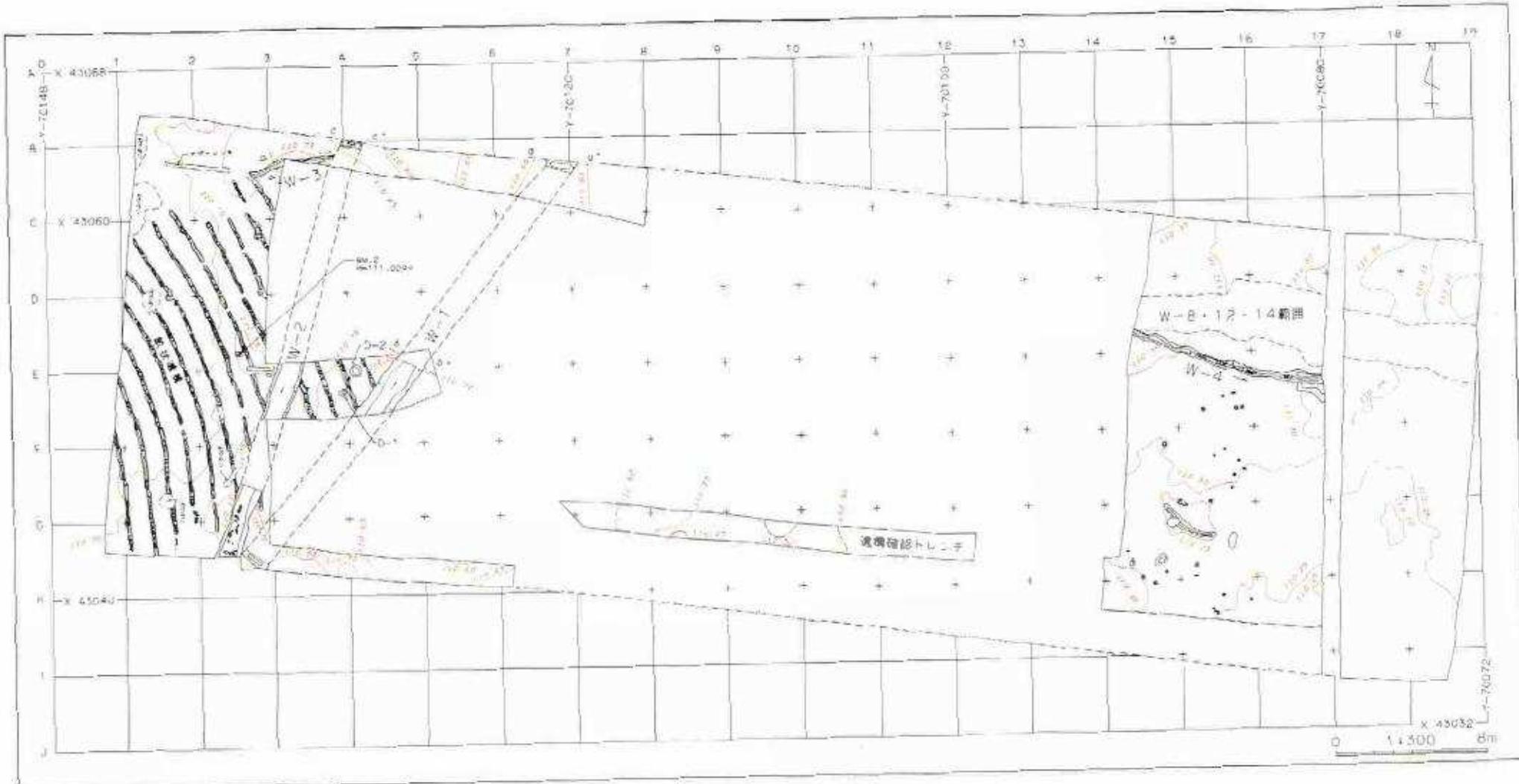
( ) は残存値 単位: cm

No	グリッド	長 種	短 種	深 き	形 状	備	考
1	D・E-4	43	38	24	不 整 形	第二面調査で検出やや方形を呈す	
2	E-3	60	55	29	楕 円	"	
3	C-3・4	148	106	49	楕 円	第一面調査	
4	B-4	(144)	84	13	楕 円	"	
5	G-6	124	75	20	方 形	"	
6	E-6	44	32	31	楕 円	"	
7	B・C-8	68	64	17	ほ ぼ 円	"	
8	B・C-8	50	46	27	不 整 形	"	
9	C-9	48	40	9	楕 円	"	
10	B-8	44	30	8	楕 円	"	
11	C・D-11	150	100	28	楕 円	"	
12	D-9・11	86	68	17	楕 円	"	
13	E-9・11	86	80	17	楕 円	"	
14	E-11	38	28	13	楕 円	"	
15	F-10	44	42	16	ほ ぼ 円	"	
16	F-10・11	75	64	22	楕 円	"	
17	D-11・12	74	64	25	楕 円	"	
18	D-13	78	60	16	楕 円	"	
19	F-13	73	73	20	ほ ぼ 円	"	
20	H・I-13	(247)	—	43	不 明	" 約1/2 検出	
21	F・G-15・16	90	90	14	円	"	
22	F-16	62	58	19	楕 円	"	
23	E-15	23	23	7	円	"	
24	E-15	28	24	17	楕 円	"	
25	E-16	23	20	8	楕 円	"	
26	E-16	54	33	15	楕 円	"	

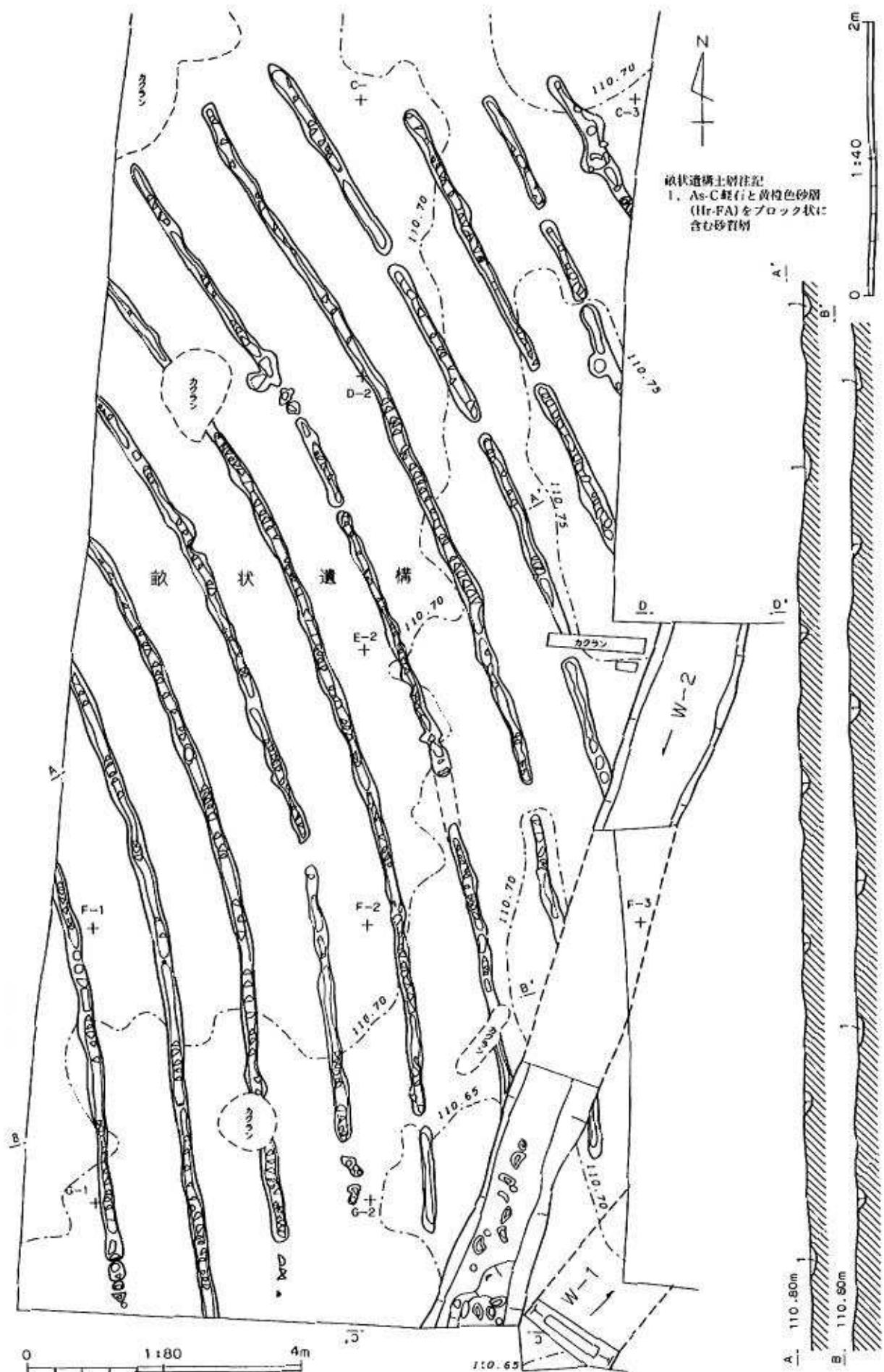
溝計測表

( ) は推定値 N・S・W・E は方位を示す

No	長さm	深さm	底のレベルm	勾配%	上幅 m	流水方向	溝の位置 (グリッド)	備	考
W-1	27.5	SW 0.43 NE 0.53	SW 110.17 NE 110.13	1.45	1.44~1.57 0.75~1.00	SW→NE	B-6.7~ G-2	古墳時代	
2	23.2	SW 0.24 NE 0.15	SW 110.41 NE 110.48	3.00	1.15~1.38 0.70~1.08	NE→SW	A-3.4~ G-2	古墳時代	
3	4.5	W 0.05 E 0.04	W 110.66 E 110.64	4.40	0.23~0.40 0.10~0.20	W→E	B-2.3	古墳時代	
4	10.5	W 0.07 E 0.14	W 110.73 E 110.60	12.38	0.30~0.50 0.10~0.25	W→E	D-14~ E-16	古墳時代 土師器片出土	
5	26.0	N 0.83 S 0.81	NW 110.02 SE 109.90	4.61	2.00~2.50 0.60~1.00	NW→SE	B-4.5~ H-6.7	中世以降	
6	(10.2)	N 0.12 S 0.02	N 110.79 S 110.85	5.88	0.22 0.30	—	C.D- 2	近代以降	
7	(23.0)	N 0.10 S 0.19	N 110.75 S 110.60	6.52	1.05 1.32	—	B-2~G-2	近代以降	
8	63.1	W 0.23 E 0.26	W 110.57 E 110.11	7.29	0.45 0.50	W→E	A-3~ E-19	近代以降 W-12・14と重複流れ込みの須恵・土師器片	
9	15.6	W 0.06 E 0.03	W 110.80 E 110.74	3.85	0.22~0.40 0.08~0.18	W→E	B-5~C-8	近代以降	
10	14.8	N 0.05 S 0.02	N 110.70 S 110.68	1.35	0.44~0.80 0.14~0.30	N→S	C-7~F-7	近代以降	
11	(7.3)	W 0.03 E 0.04	W 110.70 E 110.67	4.10	0.25~0.40 0.08~0.15	—	D-5.6.7	近代以降	
12	31.5	W 0.04 E 0.10	W 110.74 E 110.27	14.90	0.35~1.00 0.10~0.40	W→E	C-8~ D-15	近代以降 W-8・14と重複	
13	(1.0)	N 0.38 不 明	N 110.50 S —	—	—	—	C-13.14	近代以降	
14	34.0	W 0.23 E 0.12	W 110.46 E 110.39	2.05	1.50~4.00 1.00~1.20	W→E	C-8~ D.E-16	中世以降 須恵・土師器片他 W-8・12と重複	



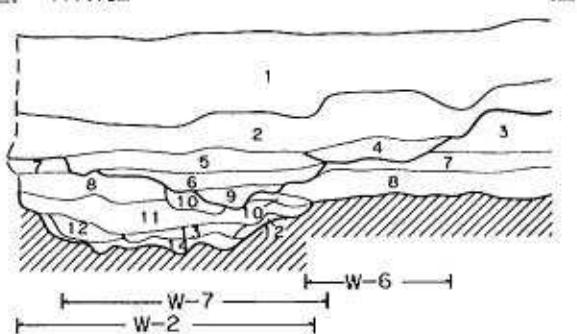
第6図 第二面調査区平面図



第7図 故状遺構、W-1・2実測図

W-2断面図

C = 111.70m



- W-2 土質記

  - 褐色灰色粘質土層 白色軽石粒を含む (As-B軽石下水田別)
  - 黒褐色粘質土層 As-C 軽石+Hr-FP 粒、黃褐色土をわずかに含み酸化を帯びる
  - 黒褐色粘質土層 飲化路あり、As-C 軽石をわずかに含む
  - 黒褐色粘質土層 As-C 軽石をわずかに含む
  - 灰色砂層 わずかに軽石粒を含む

W-2・6・7 土層別記

1. 砂土
2. 灰褐色土層
3. 黄褐色砂層 酸化を帯び、鉄分の凝集が見られる
4. 灰褐色土層 様まりが暗く、微砂をわずかに含む (W-6)
5. 灰褐色土層 わずかに黄褐色土層が入る (W-7)
6. 灰褐色粘質土層 (W-7)
7. 灰褐色粘質土層 As-B軽石を含む
8. As-B軽石層
9. 喷火色粘質土層 白色軽石有り (W-7)  
(以下W-2)
10. 略褐色粘質土層 As-C軽石と黒色粘質土層をわずかに含む
11. 黑褐色粘質土層 As-C軽石をわずかに含む
12. 黑褐色粘質土層 As-C軽石をブロック状に含む
13. 黑褐色粘質土層 As-C軽石をわずかに含み細胞を含む
14. 灰褐色砂層 所々に酸化を伴う
15. 灰褐色土層

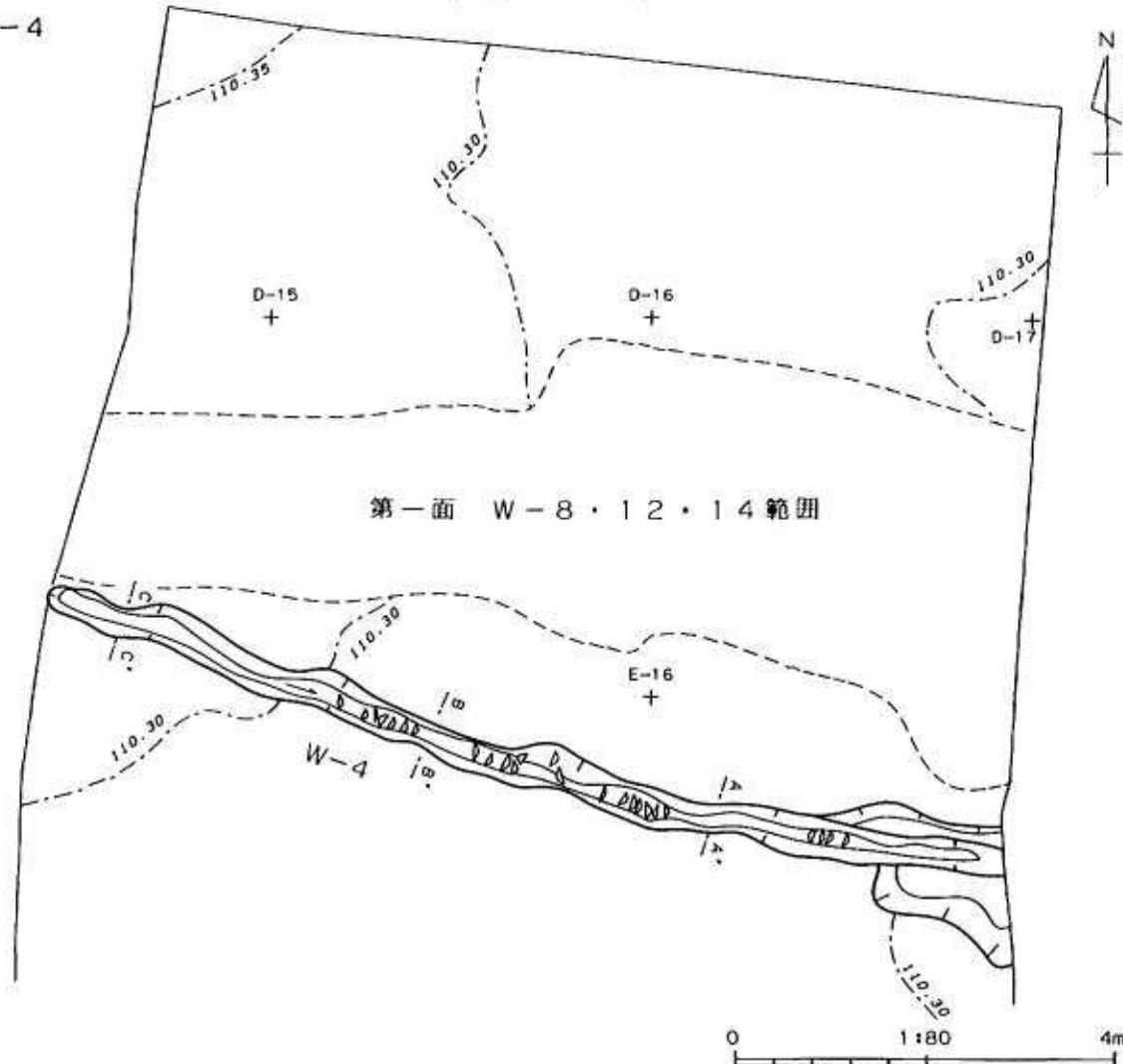
D- 111.00m D'

1 2 3 4 5

0 1:40 2m

第8図 W-2断面図

W = 0



A .A' 111.30m

B' 111.30m

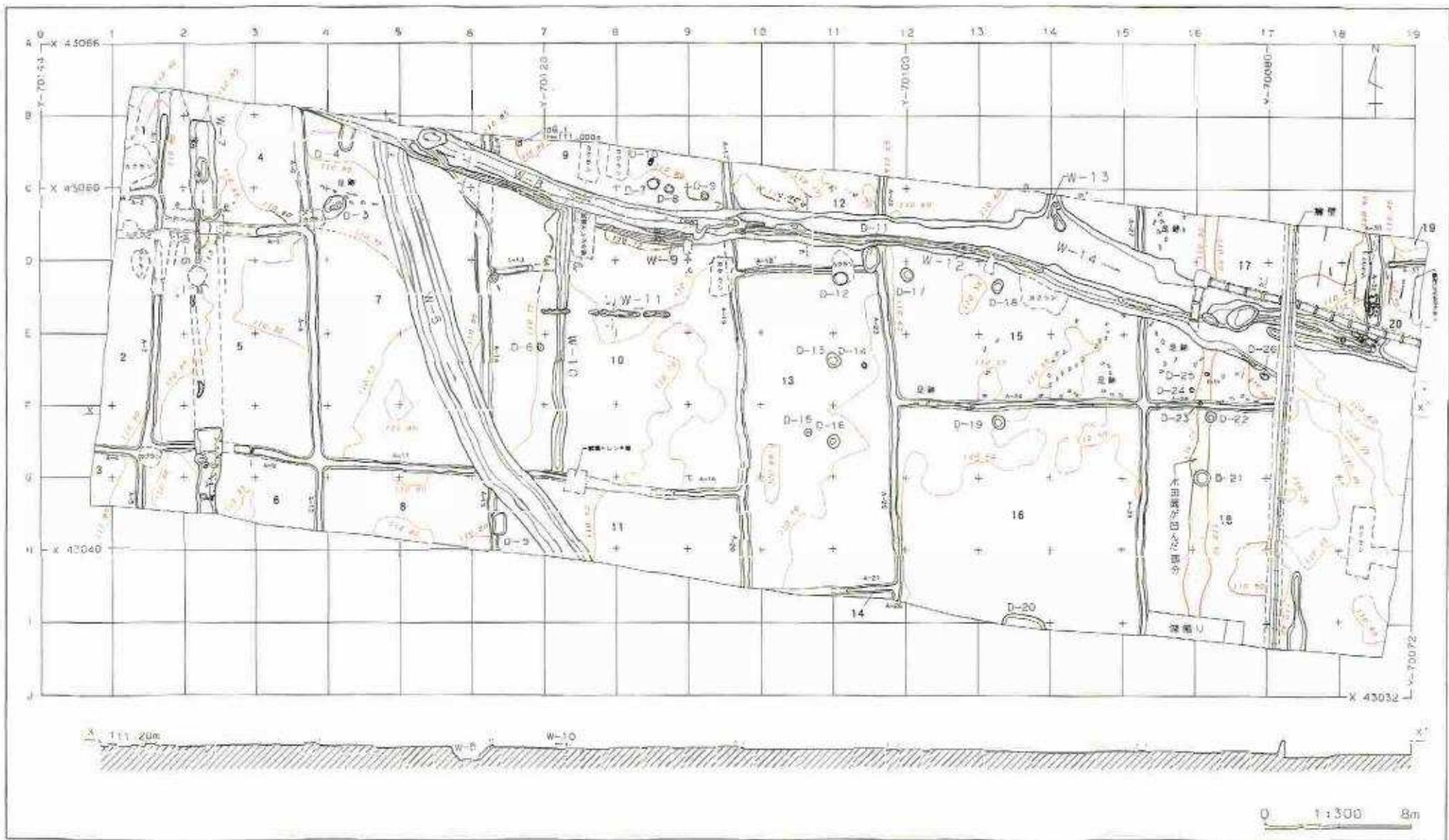
c' 111, 3Dm

三

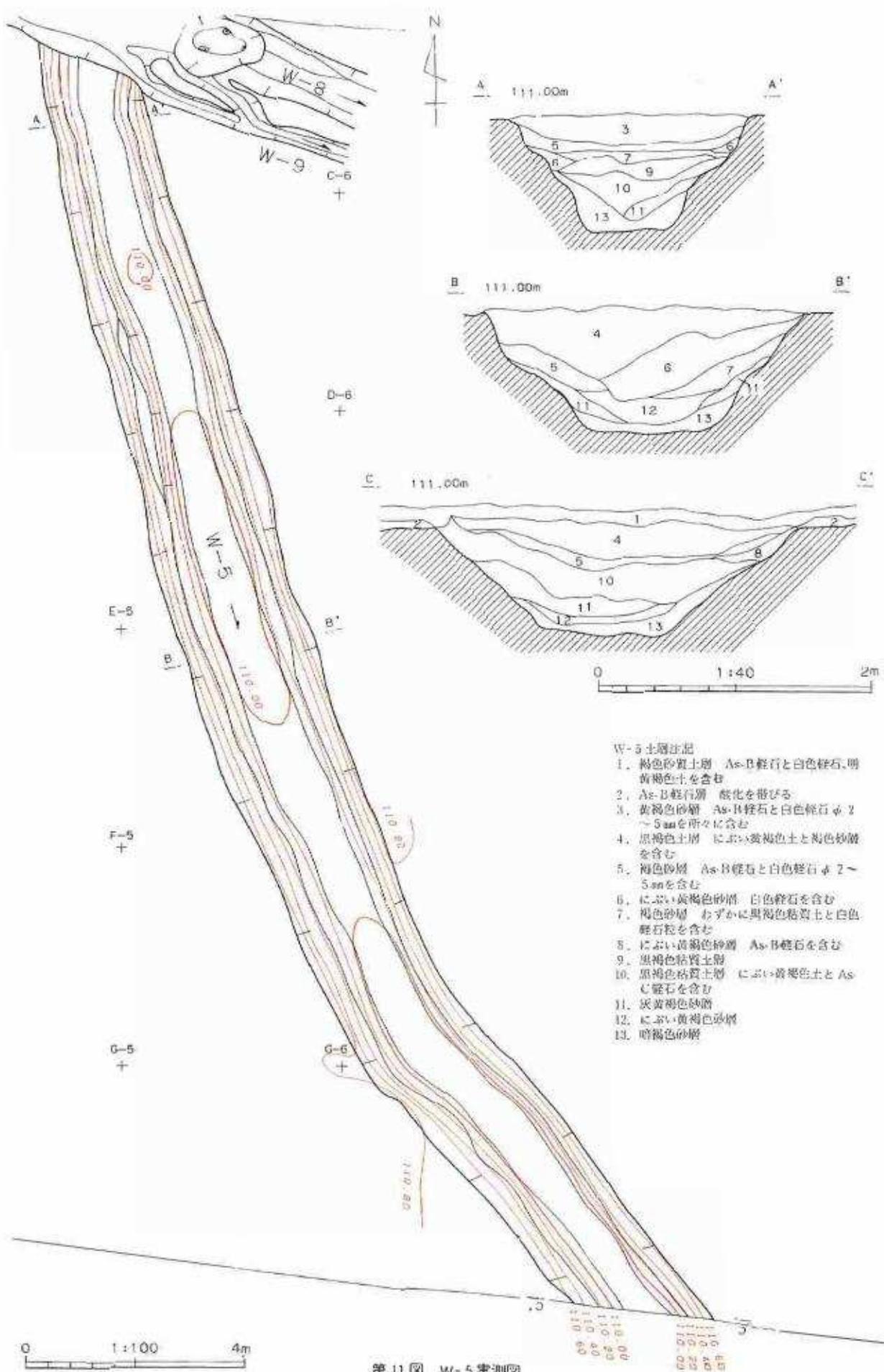
#### W-4 土層注記

A horizontal number line starting at 0 and ending at  $2m$ . The line is divided into 8 equal segments by tick marks. The first segment is explicitly labeled with the ratio  $1:40$ .

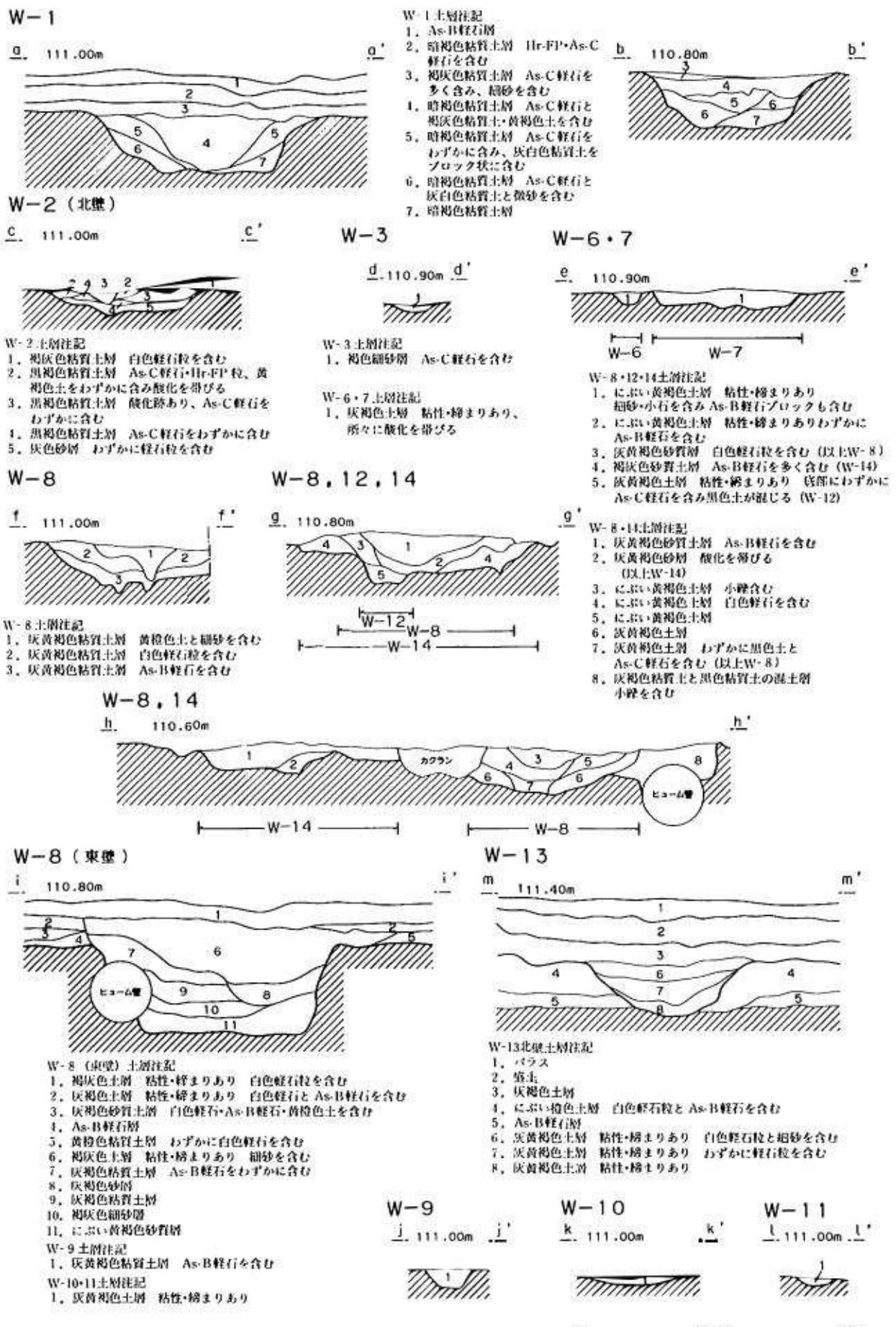
第9図 W-4 実測図



第10図 第一面調査区平面図

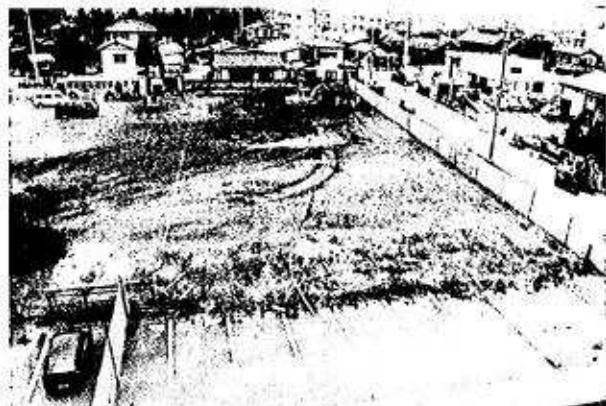


第11図 W-5 実測図

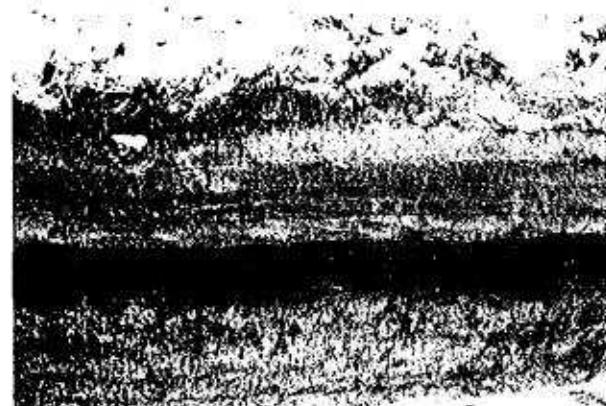


注) W-1~3は第6図、W-6~14は第10図参照。

第12図 W-1~3、W-6~14断面図



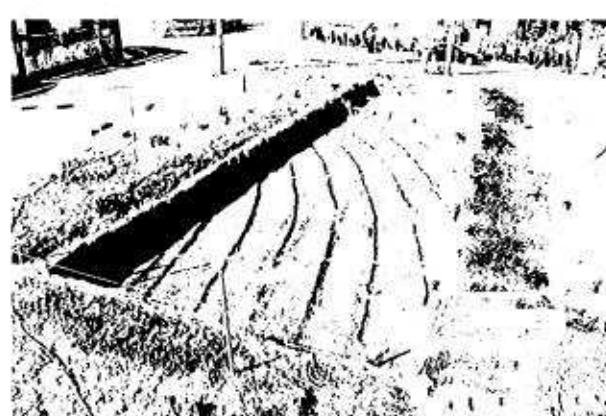
調査前現況（東から撮影）



深掘り土坑断面



畝状遺構全景（精査前南より）



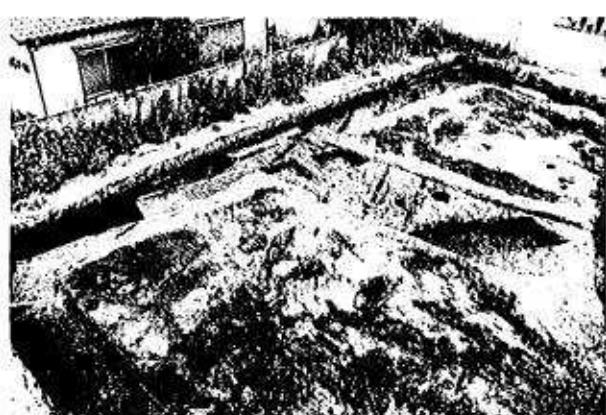
畝状遺構全景（精査後）



畝状遺構近景（南より）



畝状遺構近景（農具使用痕）

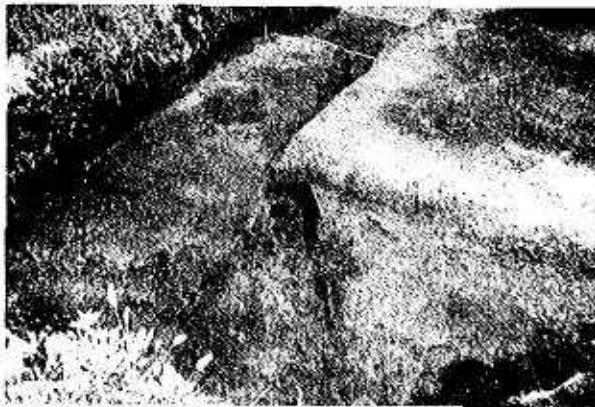


W-1・2、D-1・2、畝状遺構全景



D-1・2、畝状遺構近景（南より）

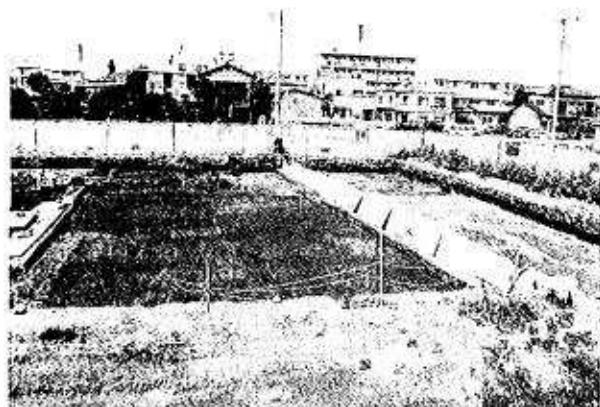
図版 2



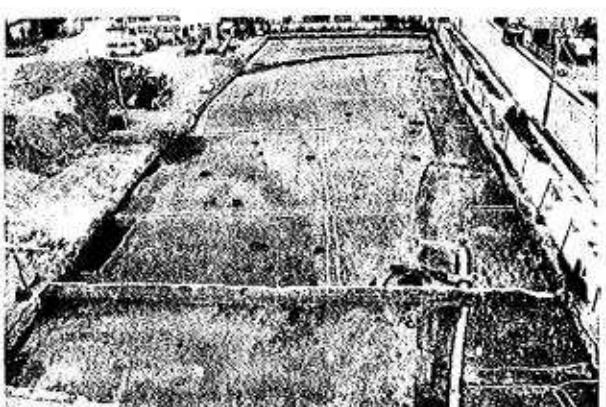
W-3 全景 (西より)



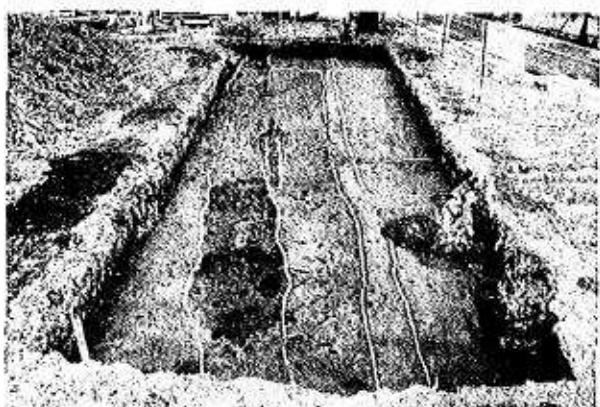
W-4 全景 (西より)



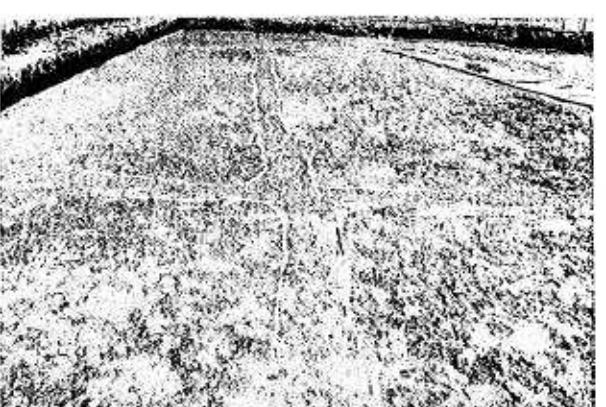
第二面調査範囲 (南より)



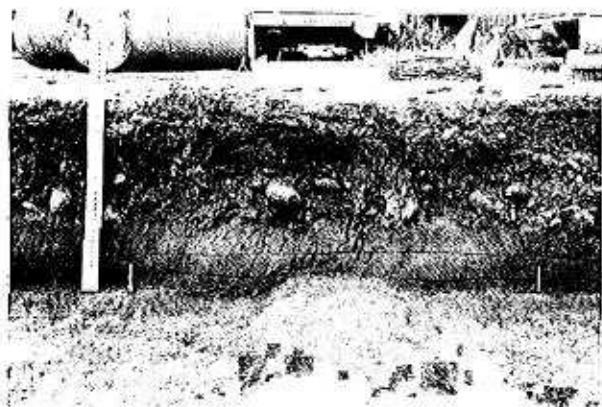
As-B 軽石下水田跡全景 (東より)



残地部分 As-B 軽石下水田跡、W-6・7 全景 (北より)



As-B 軽石下水田跡検出状況 (精査前)



南壁畦畔セクション

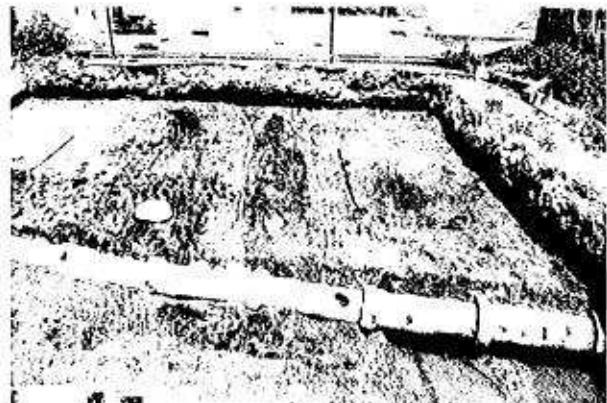


D-6 グリッド内水口 (南より)

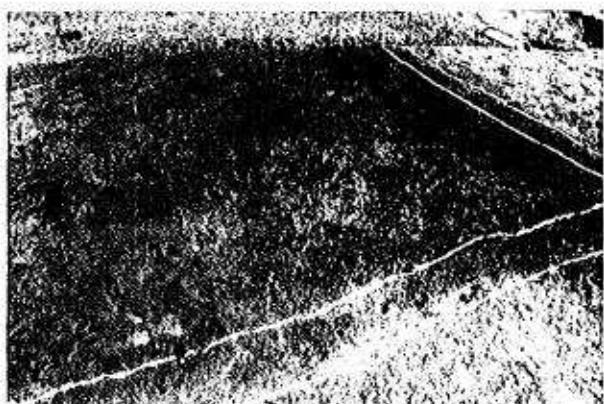
図版3



C・D-18グリッド内水口（南より）



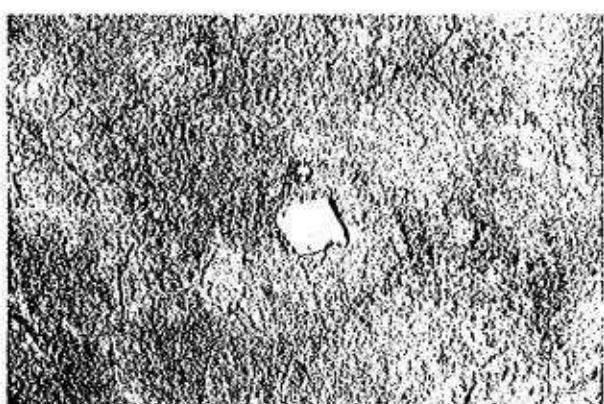
C・D-18グリッド内幅広の畦畔（南より）



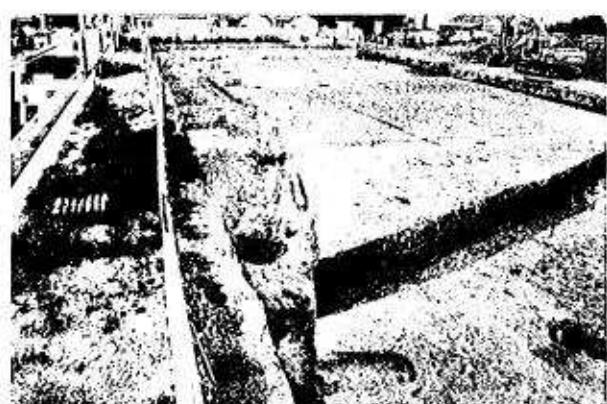
As-B 軽石下水田面の足跡列



17・18号水田面の凹み部分（東より）



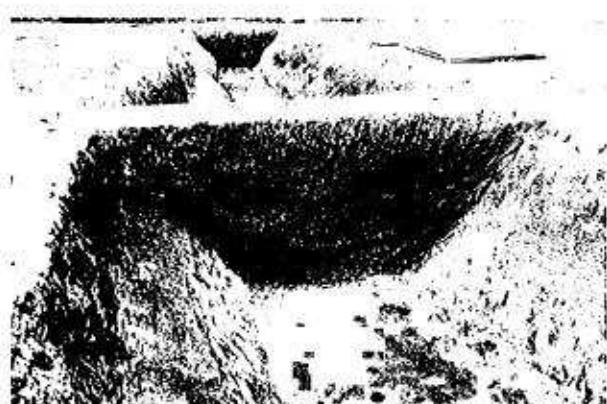
As-B 軽石下水田面遺物出土状況



W-5・8・9・12・14全景（西より）

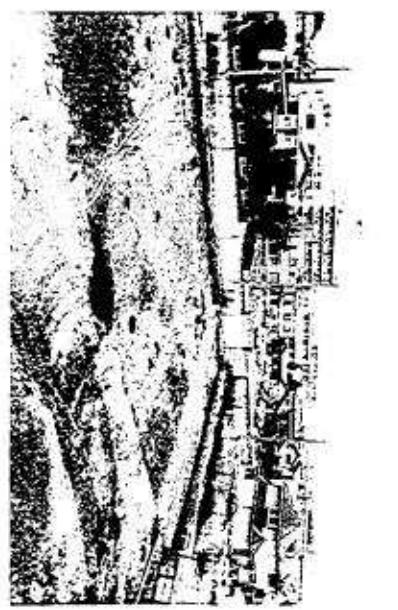
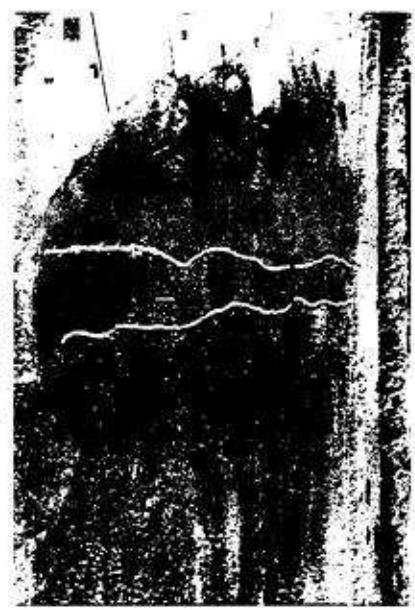


W-5 全景（南より）

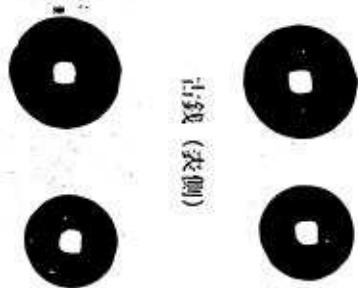


W-5 南隣セクション

図版 4

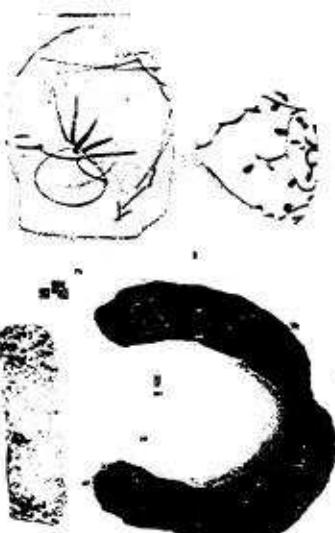


古銭 (表側)



古銭の遺物

八戸市下木川面鏡山遺物



平安時代の遺物

近世以降の遺物

## 抄 錄

フ リ ガ ナ	オオドモタクチゾエイセキ
書 名	大友宅地添遺跡
副 書 名	前橋西部老人福祉センター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編 著 者 名	スナガ環境測設株式会社 萩野博巳
編 集 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664番地の4
発 行 年 月 日	西暦1999年3月25日

フリガナ 所取遺跡名	フリガナ 所在 地	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 經			
大友宅地添遺跡	前橋市大友町	10201	10A85	36°23'08"	139°03'06"	19980615 19990325	1500m <sup>2</sup>	前橋西部老人福祉センター建設事業

所 取 遺 跡 名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物
大友宅地添遺跡	溝 跡	古 墳 時 代	溝跡 4条	土師器片
〃	耕 作 跡	〃	畝状遺構 13列	須恵器片
〃	土 坑	〃	土 坑 2基	なし
〃	水 田 跡	平 安 時 代	水田跡 20面	須恵器・土師器片
〃	溝 跡	中 世 ~ 現 代	溝 跡 10条	古銭、磁器・陶器片
〃	土 坑	中 世 以 降	土 坑 24基	須恵器・土師器片

### 大友宅地添遺跡

1999年 3月20日 印刷

1999年 3月25日 発行

発 行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市上泉町664番地の4

編 集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1